

# 福祉保健委員会行政視察報告書

令和6年7月31日

つくば市議会議長 五頭 泰誠 様

福祉保健委員長 長塚 俊宏  
(公印省略)

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施したので、報告します。

## 記

### 1 視察期間

令和6年5月15日(水)から令和6年5月17日(金)まで

### 2 視察先及び視察事項

#### (1) 千葉県我孫子市

ひとり暮らし高齢者等ごみ出し支援ふれあい収集事業について

#### (2) 兵庫県姫路市

姫路市生涯現役推進計画について

#### (3) 鳥取県鳥取市

地域食堂について

子育て支援センターについて

### 3 視察目的

本委員会所管に係る上記事項について調査研究し、本市の福祉・保健衛生の発展に寄与する。

### 4 参加者 計9名(委員6名、議長、議会局(随員)2名)

委員長 長塚 俊宏

副委員長 浜中 勝美

委員 小村 政文、川久保 皆実、あさの えくこ、塚本 洋二

議長 五頭 泰誠

議会局 町井 浩美、草牧 優希

## 5 研修内容

### (1) 千葉県我孫子市議会

【5月15日（水）説明：環境経済部生活衛生課】

「ひとり暮らし高齢者等ごみ出し支援ふれあい収集事業について」

我孫子市では、平成13年12月に居宅介護支援事業者調査、平成14年3月に独居高齢者調査を実施し、平成14年5月に検討委員会を発足して協議を行い、平成15年2月から高齢者等ごみ出し支援ふれあい収集事業を開始した。通常のごみ収集を直営で行っていたことから、事業開始時は直営で行っていたが、業務の負担が大きいことから、平成20年からは委託に変更している。この事業の対象となるのは、ごみ集積所までの排出が困難なひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障害者世帯等であり、介護認定等の有無に関わらず自らごみ集積所までの排出ができず、他に協力を得られないことが認められれば利用できる。ごみ等の収集場所は、原則として利用者の玄関先としているが利用者に合わせており、縁側や勝手口だけでなく、アパート居住者の場合も玄関先にするなど、幅広く対応している。

ごみ回収と同時に安否確認のための声掛けも行っており、声掛けで反応がない場合には、回収員から連絡が入り、市から本人へ連絡、繋がらない場合にはケアマネジャーや親族へ連絡する体制ができています。この声掛けにより、過去に6件緊急搬送に繋げることができ、令和6年4月時点で132世帯の希望者に声掛けを実施している。

課題としては、高齢化率が高まることに伴い希望者の増加による市の対応が挙げられる。1年ごとに10世帯ほど増加しており、委託業者からの要望で、令和6年度からは収集車両を2台に増やしている。また、5年ごとに利用者の状況を調査しているが、安否確認先がケアマネジャーのみの利用者について、担当ケアマネジャーの変更に伴う市への情報共有の徹底についても課題の1つとされている。

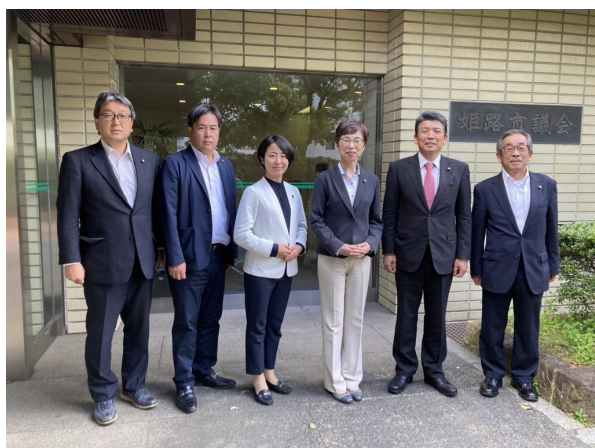


## (2) 兵庫県姫路市議会

【5月16日（木）説明：市民局生涯現役推進室】

「姫路市生涯現役推進計画について」

姫路市では、平成18年に基本的な考え方をまとめて各種事業を一体的に推進し、平成21年に姫路市総合計画を開始、平成22年に「姫路市生涯現役推進計画」を策定した。本計画は、高齢者に関する事業を側面から支えるために姫路市が独自に策定したものであり、平成27年と令和3年に見直しが行われている。姫路市では「生涯現役」とは健康・自立・活動の3つの要素から構成され、「生涯にわたり、主観的健康感を良好に保ち、必要なときには支援を受けながら自立した生活を送り、目的を持っていきいきと活動していること」と定義している。病気であっても、心の健康を保ち、自分の健康状態に一定の充足感や満足感を抱いている状態であれば、行動意欲が高まり実際の活動に繋がると考え、各個人に合った生涯現役を目指している。令和2年度時点で後期高齢者数が前期高齢者数を上回り、高齢者の単身世帯も増加している現状も踏まえ、市内50歳以上を対象にアンケートを実施し、令和3年の計画見直し時には、健康増進事業、役割就労事業、学びの充実事業が重点施策として位置付けられている。また、計画を着実に推進するためにアクションプラン事業が定められ、PDCAサイクルにより進行管理を行っている。アクションプラン事業は79事業全てを年度毎に実施、評価を行い、進捗状況に応じて内容修繕をして改善が図られている。また姫路市は、自治会加入率が約90%と高く、各地区に1つある公民館の館長は地域の方が担うなど、地域での交流が活発だからこそ実行可能なアクションプラン事業があることも特徴の一つである。



### (3) 鳥取県鳥取市議会

【5月17日（金）説明：総務部人事政策局次長兼中央人権福祉センター所長】  
「地域食堂について」

鳥取市は、文化・生活圏が同じ周辺4町と兵庫県2町とともに「麒麟のまち連携中枢都市圏」を形成しており、圏域全体の地域食堂への支援と推進体制を構築している。ロジ及びハブ拠点は、市町設置の施設内に大型冷蔵・冷凍庫を設置し、ロジ拠点から毎月約3トンの食材等を出荷、各ハブ拠点を通じて各地域食堂や母子支援施設、更生支援施設などへ提供している。平成27年に食事を満足にとれない子どもの状況を把握したことから地域食堂を開始したが、低所得層の子どもも居場所があれば満足感や自己肯定感が高いことが分かったために継続することとなり、現在は運営団体（44 食堂）、支援団体（62 団体）、行政（7市町）で地域食堂ネットワークを構築している。令和5年度には、地域食堂を基盤に孤独・孤立対策を推進することを決定したほか、地域食堂に関わるヒアリング調査も実施し、立ち上げ時からの課題もかなり整理されたことが確認できている。運営のノウハウがあることも含め、地域食堂を運営しやすい環境作りができています。

#### 「子育て支援センターについて」

子育て支援センターは市内に14か所設置され、市立9か所は直営、認定こども園4か所と小規模保育事業所1か所は各支援センターに市が委託している。子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育てなどに関する相談、援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育てや子育て支援に関する講演等の実施を4つの柱として、各支援センターが特色をいかして年間計画を立てて事業を実施している。また、職員の質を向上するため、管理栄養士との合同研修の実施や、鳥取市の子育て支援を行う9団体で構成した子育て支援ネットワークへの参加、14か所を3ブロックに分けたブロック会議による情報交換を行っている。今後は、地域子育て相談機関としての機能を果たすことができるかを検討していく。



## 【行政視察所感欄】

福祉保健委員会の行政視察は、本市においても課題である高齢者世帯のごみ出し問題や高齢者の自立支援、また地域食堂と子育て支援事業の取組について、先進地である我孫子市、姫路市、鳥取市3市を選定しました。

我孫子市では、「高齢者等ごみ出し支援ふれあい収集事業」について学び、単なる個別収集に限らず安否確認のための声掛けも併せて実施しているお話しがとても参考になりました。

姫路市では、平成22年に「生涯現役推進計画」が策定され、3つの要素、健康・自立・活動を支援する事業が展開されていました。姫路市は世界文化遺産である国宝姫路城を有する世界的観光地でもあることから、高齢者が元気にボランティアガイドをされるお話を伺い、今後の高齢者支援の展開に大変勇気を頂きました。

鳥取市では、「地域食堂」と「子育て支援センター」について詳しくお話を伺ってまいりました。本市においても「みんなの食堂」が事業展開されていますが、鳥取市との一番の違いは、文化・生活圏が同じ周辺の町との連携を形成した支援体制を構築している点で、各委員が興味深く質疑をされた印象です。また子育て支援センターについては、本市との比較をしながらの充実した視察時間となりました。

今回の3市での視察が、今後のつくば市の高齢者支援事業と子育て支援事業に、大いに役立つものになると考えます。

以上、福祉保健委員会行政視察の報告と致します。

福祉保健委員長 長塚 俊宏